

PRESS RELEASE

■本資料は、福山市政記者クラブで配布しております。

2018年3月26日

報道関係各位

社会医療法人祥和会
脳神経センター大田記念病院

脳神経センター大田記念病院、 新・リハビリ棟、4月2日(月)オープン。

～リハビリテーションセンター、回復期リハビリテーション病棟、通所リハビリがひとつの建物に～

社会医療法人祥和会(理事長:大田泰正)は、昨年8月7日から、その中核的医療施設である脳神経センター大田記念病院(院長:栗山 勝、所在地:広島県福山市沖野上町)において、新・リハビリ棟の建築工事を行ってまいりましたが、3月23日に竣工し、4月2日(月)にオープンいたします。



■ 新・リハビリ棟建築の理由

急性期、回復期、生活期…すべてがつながるリハビリテーション提供体制を作ります。

脳神経センター大田記念病院は、脳卒中(脳梗塞・脳出血・くも膜下出血)について、年間約 1,200 症例の治療を行なっております。脳卒中は、発症後に身体に麻痺が生じたり、言語障害が残ることが多く、社会復帰のためのリハビリが欠かせません。

当院では、急性期の超早期リハに取り組み、入院後、基本的に翌日までにリハビリを開始。患者さんのうち92%は発症から翌日までにリハビリを実施しています。また、「365 日リハ」を実践し、日曜、祝日、年末年始であっても、リハビリを実施しています。

しかし、これまで急性期に特化した診療体制であったこと、診療報酬制度による在院日数の制限から、病状が安定された患者さんは短期間で退院せざるを得ず、リハビリテーションが十分に行なえない患者さんもおられました。

そこで、これまで当院には設置していませんでした「回復期リハビリテーション病棟」を開設し、急性期治療ののち、リハビリが必要な方について、同一の病院のなかで、回復期リハビリテーション病棟に転棟できるようになります。

また、在宅復帰後の方を対象とした「外来リハビリテーション」、在宅療養をされている方を対象とした「通所リハビリテーション」「訪問リハビリテーション」にも引き続き注力します。

以上のようなあらゆる場面の「リハビリ」と「リハビリ診療」を一層強化し、その機能をひとつにまとめるため、新・リハビリ棟を建築することとなりました。

■ 新・リハビリ棟の機能

●【3階】 総面積 625 ㎡(約 189 坪)のリハビリテーションセンターを開設! ～リハビリテーションのあらゆる機能がワンフロアに～

新・リハビリ棟の3階に開設されるリハビリテーションセンターには、ワンフロアに「リハビリテーション室」「リハビリ診察室」(2室)、「言語聴覚療法室」(3室)、「個別訓練室」(3室)、「神経・心理検査室」が設置されます。

退院後の ADL(日常生活動作)を訓練するため、玄関や台所、縁側などを再現した「ADL 訓練ハウス」や、患者さんが退院後、ご自宅の浴室で入浴ができるよう、入退浴や浴槽内での立ち座りの練習ができ、浴室改造時のシミュレーションまで行なえる「浴室ユニット」も新規に導入いたします。

また、各種トレーニング機器も一層の充実を図り、脳卒中などの脳血管疾患患者および運動器疾患患者のリハビリテーションの可能性を広げる IVES 療法を行う「随意運動介助型電気刺激装置」、身体を吊り上げ体重を軽くしながら歩行訓練を行うことができる「免荷式レッドミル」等を導入いたします。



▲リハビリテーション室。南西から北東を望む。



▲リハビリテーションセンター受付



▲ADL(日常生活動作)訓練ハウス



▲ADL(日常生活動作)訓練ハウスの模擬玄関。患者さんが在宅復帰するためのトレーニングを行います。



●【2階】 2018 年秋を目指して「回復期リハビリテーション病棟」(50 床)を開設
 ～福山市南部では初めて～

回復期リハビリテーション病棟とは、脳血管疾患または大腿骨頸部骨折などの病気で急性期を脱してもまだ、医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者さんに対して、多くの専門職種がチームを組んで集中的なリハビリテーションを実施し、心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻っていただくことを目的とした入院病棟です。2000 年の診療報酬改定から制度化されました。

当院の回復期リハビリテーション病棟は、1 人室(2 室)、2 人室(4 室)、4 人室(10 室)の3種類の病室で構成され、木目と白の内装により、家のような雰囲気を演出。4 人室も間仕切り家具を設置することで、隣人をできる限り意識することのないパーソナル・スペースを作ります。

また、「起きている時間は、リハビリの時間」となるよう、1 周 70 メートルの回廊型の廊下には、歩行コースを設定。その中央には、食堂とサテライト・リハスペースが位置します。病棟そのものがリハビリの空間になるよう設計されています。

当院には「病気や外傷の結果生じる障害を医学的に診断治療し、機能回復と社会復帰を総合的に提供することを専門とする」日本リハビリテーション医学会専門医が2名在籍しており、リハビリテーションセンターと回復期リハビリテーション病棟を支えます。

万が一、患者さんの脳血管疾患が再発した場合も、急性期部門がバックアップすることから、途切れることなく、医療サービスを受けることができます。

このたびの開設により、福山市内の病院では8番目の開設となります。これまで、福山市多治米、川口、新涯、曙、箕島、水呑、鞆町等には、「回復期リハビリテーション病棟」を持つ病院がなかったことから、福山市南部では初の開設となります。



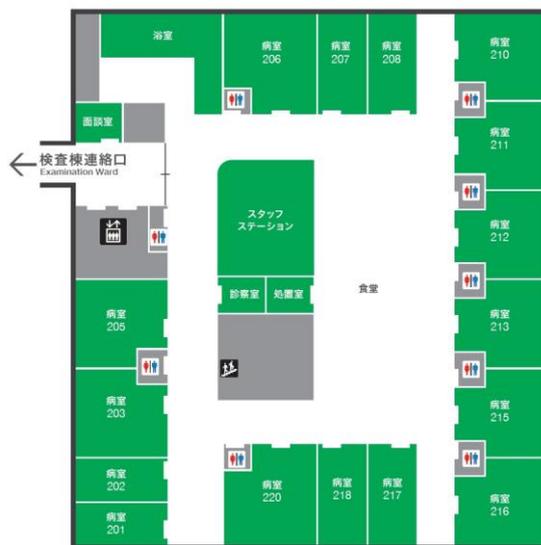
▲病棟中央のスタッフステーション。このステーションを取り囲むカタチで、病室が並びます。



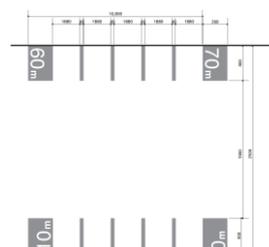
▲病室の例。202 号室(個室)。



▲202 病室のユニットシャワー・トイレ。



▲2階フロア図



◀中央のスタッフステーションと食堂を囲む廊下には、1 周 70 メートルの歩行スケールを設置。右回りでも、左回りでも一周できるものです。

●【1階】 明るく、温かい「通所リハビリテーション」が移転オープン！
 ～ご自宅からドア・ツー・ドアで、送迎車がまるまる入る大屋根付き玄関で、雨の日も安心～

通所リハビリテーションとは、日常生活の自立を助けるために理学療法、作業療法、その他必要なリハビリテーションを日帰りでを行い、利用者の心身機能の維持回復を図るサービスです。介護保険の利用認定を受けている方のうち、「要介護1」以上の方が利用できます。

当院の通所リハビリテーションは、旧・リハビリ棟では、建物の4階に位置しておりましたが、新・リハビリ棟では1階に設置。東側、南側の2方向に大きく採光部を取り、ご高齢の利用者さんにとって、冬場も温かい空間となっています。

また、ご家庭からの送迎車は、通所リハ専用玄関に横付けし、ドア・ツー・ドアで到着します。送迎車がまるまる入る大屋根付き玄関で、雨の日も安心です。

現在、当通所リハビリテーションでは、「1日コース」(6時間)、「短時間コース」(1～2時間)、「フィットネス型コース」を設定しております。



▲建物東側(港町側)にある通所リハビリ専用玄関。自動車がすっぽり入る大屋根付き。



▲通所リハビリテーション。北から南を望む。



▲家庭サイズの浴槽を使い、残存機能を生かしながらリハビリ入浴を行う浴室。介助しやすいよう、自在に持ち位置の設定できる手すりを設置しています。



新・リハビリ棟 建物について

■ 建築概要

- 所在地** : 福山市沖野上町三丁目6番
地域地区 : 第一種住居地域
設計 : 株式会社 U.D 設計
施工 : 株式会社 鈴木工務店
建屋構造 : 鉄骨造(S造/耐火構造物)
階数 : 地上3階(地下室はありません)
建築面積 : 1,192.50 m²
延床面積 : 3,515.61 m²



▲南側(筑島側)から見た外観。左は外来棟と結ぶ連絡通路(跨道橋)。

※既存の検査棟に増築する形で建築。検査棟と新・リハビリ棟は、1～3階の各階で接続します。

※市道上に、新・リハビリ棟3階と既存の外来棟3階を結ぶ「連絡通路」(跨道橋)を設置。連絡通路の全長は14m、床面積は45.59 m²。

工期 : 着工2017年8月7日、竣工2018年3月23日。

利用開始予定 : 建物竣工後、3月24日から4月1日にかけて、医療機器、リハビリ機器等の搬入設置、サインシステムを行い、4月2日(土)より利用開始。

総工費 : 約10億円(内部什器・備品、移転費用は含まず)

■ フロアガイド

3階	■リハビリテーションセンターのフロア ▼リハビリテーション室▼リハビリ診察室 ▼神経・心理検査室▼言語聴覚療法室▼個別訓練室 ▼ADL(日常生活動作)訓練ハウス▼浴室ユニット ▼リハビリテーション課オフィス ▽第2カンファレンスルーム ▽男女トイレ ▽みんなのトイレ(2室。うちオストメイト付き1室) ▽連絡通路(跨道橋。新・リハビリ棟←→外来棟) ▽検査棟接続口
2階	■回復期リハビリテーション病棟のフロア ▼病室 16室(50床)▼患者専用トイレ(右麻痺用 4 左麻痺用 4) ▼スタッフステーション▼病棟診察室・処置室 ▼食堂▼サブ・リハビリテーション ▼浴室▼特殊浴室▼コインランドリー▼サニテーションルーム ▽検査棟接続口
1階	■通所リハビリテーションのフロア ▼通所リハビリテーション▼専用トイレ▼専用浴室 ▼通所リハビリ専用玄関・車寄せ ▽医局(医師オフィス) ▽第1カンファレンスルーム ▽男女トイレ ▽検査棟接続口

リハビリ棟 Rehabilitation Ward

3 リハビリテーションセンター
Rehabilitation Center

2 回復期リハビリテーション病棟
Recovery Rehabilitation Unit

1 通所リハビリテーション
Ambulatory Rehabilitation
医局
Doctors' office

i 回復期リハビリテーション病棟[2階]

面会時間: 平日・土・日・祝祭日 8:00-20:00

発熱、せき、鼻水など風邪症状のある方、
インフルエンザ等の感染症やその疑いのある方の
面会はお断りください。

検査棟連絡口 Examination Ward

リハビリ棟は各階で検査棟への連絡通路があります。
検査棟へはこの玄関から入り、
リハビリ棟のエレベーターを使って各階へお越しください。

▲玄関柱に設置予定のサインパネル

■新・リハビリ棟は、
 災害に強く、省エネ性能の高い建築物です。

新・リハビリ棟は、既存の検査棟に増築する形で建築しました。建築地の大半を「第一種住居地域」が占めるため、近隣の家々に圧迫感を与えない地上3階建て(高さ 12.80m)です。建物の土地面積は 1,192.50 m²、延床面積 3,515.61 m²です。

建築地は、江戸時代に海を埋め立てて作られた土地であり、軟弱な地盤のため、建物全体で合計60本の節杭を地盤に打ち込みました。そのうえで、重量鉄骨によりフレームをしっかりととり、軽量パネルによる外壁を採用し、建物そのものの軽量化を図り、災害に強い構造をめざしました。



▲新・リハビリ棟、杭打ち作業[2017年8月10日撮影]

■新・リハビリ棟の特長

- ◎【構造】 一般的に鉄骨造で使われる床構造よりも強固な構造を採用し、下階へ伝わる振動や音を吸収し、室内環境の向上に努めています。
- ◎【省エネ】 断熱性能が高い外壁材(ALC)を採用し、室内側には吹付タイプの断熱材を併用することで、空調効率を向上させ、建物の省エネ性能を高めるよう配慮しました。
- ◎【省エネ】 すべての照明にLEDを採用。低電力でありながら、明るい空間になりました。
- ◎【設備】 2階の「回復期リハビリテーション病棟」では、加湿機能付きの空調機を採用し、室内の乾燥によるウィルス等の飛散を防ぐよう配慮しています
- ◎【設備】 患者さんがお使いになる洋式便器は、TOTOの「きれい除菌水」ミストを噴霧するタイプを採用。



▲新・リハビリ棟鉄骨工事[2017年10月27日撮影]



▲市道上の連絡通路(跨道橋)工事[2017年12月5日撮影]

■「広島県地域医療介護総合確保事業補助金」の
 交付を受けて、建築しました。

「新・リハビリ棟」は、「広島県地域医療介護総合確保事業補助金交付要綱」による「病床機能分化・連携促進基盤整備事業」として、県知事のご承認をいただき、「回復期リハビリテーション病棟」(2階)、「リハビリテーション室」(3階)部分の工事費ならびに医療機器等の備品購入について、補助金の交付を受けて建築しました。

■新・リハビリ棟の建築は、
 2015年より続く「病院耐震化事業」の一環でもあります。

脳神経センター大田記念病院では2016年5月、1976年12月の開院時に建築した「本館Ⅰ期」部分（沖野上町三丁目6番。沖野上三丁目バス停側）と、その後増築した「本館Ⅱ期」部分が、現在の耐震基準を満たしていないこと。ならびに、老朽化が進んでいることから、入院棟（沖野上三丁目5番）に増築するかたちで、新・外来棟を建築し、「受付」「診察」「検査」「画像撮影」等の機能を移転オープンさせました。

それに続き、このたび竣工した「新・リハビリ棟」は、前記の「本館Ⅰ期」「本館Ⅱ期」に残る「リハビリテーション室」「通所リハビリテーション」「医局」（医師オフィス）の移転とともに、新たに「回復期リハビリテーション病棟」（50床）を加えて、建築したものです。なお、現在の総病床数は213床です。

あわせて、市道を挟み建っている「入院棟」「外来棟」との一体運用のため、関係諸官庁の許可を得て、「外来棟」と「新・リハビリ棟」を市道上空で結ぶ「連絡通路」（跨道橋）を設置しました。

「新・リハビリ棟」の完成後、「本館Ⅰ期」「本館Ⅱ期」部分を解体し、2019年春を目処に跡地を整地します。



2018年3月末時点での脳神経センター大田記念病院建物配置図

- ▲病院東側敷地（沖野上三丁目6番）の南側に「新・リハビリ棟」を建築しました。
- ▲2018年4月以降、準備が整い次第、「本館Ⅰ期」「本館Ⅱ期」部分と、既存の連絡通路（跨道橋）〔赤色の点線枠の部分〕を解体・整地します。跡地の利用については、未定です。

■ 報道関係者向け見学のごあんない

3月23日に竣工式を執り行いました。翌3月24日(土)以降4月1日(日)の間は、医療機器設置工事、什器設置、引越し作業等により、建物にお入りいただくことはできません。

そこで、4月2日(月)のオープン日以降、取材等で御見学を希望の場合、個別に広報担当者がごあんないさせていただきます。お気軽にお電話にて、お問い合わせください。

※施設の稼働状況によっては、御希望の曜日・時間帯に対応できないことがあります。あらかじめ御了承ください。

※竣工式写真、施設写真等、必要に応じ提供しております。お問い合わせください。



▲竣工式[新・リハビリ棟1階、通所ハにて。3月23日午前9時]



▲出席者に御礼を述べる
社会医療法人祥和会・大田泰正理事長。

■ 本件についてのお問い合わせ

社会医療法人祥和会
法人本部

広報コミュニケーショングループ
担当:島津 英昌・神野 貴志

☎ 084-975-3909 [広報直通]

FAX 084-926-6798

〒720-0825 広島県福山市沖野上町 3-6-28